

## 平成 26 年度 第 1 回 石狩市子ども・子育て会議 議事録

日時 平成 26 年 7 月 2 日 (水) 14 時 00 分～15 時 50 分

場所 石狩市民図書館 視聴覚ホール

### 議事次第

- 1 開会
- 2 保健福祉部長挨拶
- 3 委嘱状交付
- 4 委員紹介
- 5 副会長選出
- 6 議題
  - (1) 量の見込みについて (量の見込みの補正)
  - (2) 教育・保育提供区域について
  - (3) 子ども・子育て支援新制度に向けて石狩市が定める基準について
  - (4) 次世代育成支援行動計画後期計画「こども・あいプラン」の進行管理について
- 7 その他
  - (1) 事務局より事務連絡
- 8 閉会

### 出席者

#### 委員

坪田 清美	○	大久保 篤	○	高根 綾子	○
青木 貞康	○	近藤 宏	○	米倉 清隆	○
三浦 ひとみ	○	藤原 市子	○	木脇 奈智子	○
河岸 由里子	○	岩尾 美映	○	納谷 真智子	○

#### 事務局

保健福祉部	部長 沢田茂明
保健福祉部子育て支援課	課長 池田幸夫、主査 大西泰斗、主任 山本健太
保健福祉部こども家庭課	主査 笹本和義、主査 剣持司
保健福祉部こども相談センター	主査 今田竹哉
株式会社ぎょうせい	北海道支社 細谷朋浩、研究員 木戸隆

傍聴者 なし

## 【1 開会】

○事務局（池田課長）

みなさまこんにちは。

お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

事務局の子育て支援課長の池田でございます。

本日よろしく願いいたします。

坪田会長の進行の前まで私の方で進行させていただきます。

まず、事前に配布させていただいております資料から確認させていただきます。

【資料1】「量の見込み」の算出について、【資料1-1】教育・保育提供区域の設定について、【資料2】子ども・子育て支援新制度に向けて石狩市が定める基準について、【資料3】こども・あいプラン進行管理シート、【資料3-1】こども・あいプラン成果指標事業および目標事業量事業総括シートでございますでしょうか。

それと本日配布させていただきます資料をご確認いただきたいと思います。

【資料2-1】「子ども・子育て支援新制度の基準について」に対する意見の検討結果、【資料4】平成27年度本格施行までの作業・スケジュールについて、ございますでしょうか。

以上本日の資料をご用意させていただいております。

なお、本日の会議は2時間を予定しておりますのでよろしくお願ひしたいと存じます。

それでは、本日の出席状況をご報告いたします。

石狩市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により、会議は議員の半数以上が出席しなければ開くことができないとされておりますが、本日は12人全員がご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。

続きまして、保健福祉部長からご挨拶させていただきます。

## 【2 保健福祉部長挨拶】

○事務局（沢田部長）

みなさまこんにちは。

昨年から本市の子ども・子育て会議を開催しまして、前年度3回の会議を開催させていただきました。今年は計画策定になりますので4回程度会議を予定してございますけれども、国からさまざまな資料が提示され、たとえば幼稚園や保育園、認定こども園については一定のシミュレーションができるシートが配られたというところがございます。

ただ消費税8%、今後10%になるんでしょうけれども、財源に基づいた子ども施策につきましては、国の資料を見ますと、ちょっと施策の充実にあやしいところが出てきたかなというような気配を感じているところではあります。

本市としましてはそれを踏まえて、未来につながる子どもたちの施策を充実するために、実効性のある計画を作っていかなければならないというところです。

本日は石狩市が想定しているサービス量と見込みの考え方、教育・保育の提供区域の考え方、そして、本市がこれから独自で定めなければならない基準関係、これはかなり国の制度に拘束はされますが、一部市町村の意見が反映されます。

それと、本年度で終了いたします子ども・あいプランの進行管理ということで盛りだくさんではありませんが、今年1年またよろしく願いまして、私からの挨拶にかえさせていただきたいと思います。

本日はよろしく願いいたします。

### 【3 委嘱状交付】

○事務局（池田課長）

続きまして平成26年度の子ども・子育て会議の委員の方の交代がございますので、私の方からご報告させていただきます。

まず、石狩市校長会津山功一様がこれまで委員でございましたが、人事異動がございまして、校長会からは同じく望来小学校の校長先生でいらっしゃる大久保篤先生がご出席いただいております。よろしく願いいたします。

続きまして石狩市私立幼稚園PTA連合会、室岩こずえ様がこれまで委員でいらっしゃいましたが、役員改選で今年度は高根綾子様にご出席いただいております。

よろしく願いいたします。

お二方、石狩市長からの委嘱状がございます。

時間の関係もございますので先に机の上に置かせていただいておりますので、ご確認を賜ればと思います。

### 【4 委員紹介】

○事務局（池田課長）

委員の交代もございましたので、また、改めて新年度初の会議でもございますので、坪田会長様から時計回りで自己紹介をしていただければと存じます。坪田会長よろしく願いします。

○坪田会長

坪田と申します。

市内のえるむの森保育園の園長をしております。

子育て支援センターも併設しております。

よろしく願いいたします。

○近藤委員

花川北の花川わかば幼稚園理事長の近藤と申します。

このたびは石狩市私立幼稚園振興会の代表ということで参加させていただいております。

どうぞよろしく願いいたします。

○青木委員

石狩八幡町のくるみ保育園の園長をしております青木と申します。

石狩市保育所連絡協議会の会長をさせていただいております。

よろしく願いいたします。

○米倉委員

みなさんこんにちは。

石狩市子ども会育成連絡協議会の会長をしております米倉です。

よろしくお願いいたします。

○三浦委員

子育て支援ワーカーズぽけっとママの三浦と申します。

主に集団保育やファミリー・サポート・センターの運営をしております。

よろしくお願いいたします。

○岩尾委員

公募で決まりました岩尾美映と申します。

小学校4年生の母親の立場として参加しております。

よろしくお願いいたします。

○納谷委員

同じく公募で決まりました主任児童委員の納谷と申します。

よろしくお願いいたします。

○河岸委員

こども相談センター臨床心理士の河岸です。

よろしくお願いいたします。

○藤原委員

こども・コムステーション・いしかりの理事長をしております藤原です。

私の方は地域子育て支援拠点のひとつと、それから児童館の指定管理と放課後児童会の受託をさせていただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○木脇委員

藤女子大学保育学科教員の木脇と申します。よろしくお願いいたします。

○高根委員

石狩市私立幼稚園PTA連合会から参りました高根と申します。

よろしくお願いいたします。

○大久保委員

はじめまして、こんにちは。

先ほどご紹介いただきましたけれども、この春4月に望来小学校に着任しました大久保と申します。石狩市はこれで2度目の勤務になりますが、子育て支援それから学校教育含めて、生涯教育に大変熱心な市であり、再び勤務できることを大変うれしく思っております。不慣れではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（池田課長）

続きまして事務局及び説明員の紹介をそれぞれさせていただきます。

保健福祉部長 沢田茂明  
子育て支援課長 池田幸夫  
子育て支援課主査 大西泰斗  
子育て支援課主任 山本健太  
こども家庭課主査 笹本和義  
こども家庭課主査 剣持司  
こども相談センター主査 今田竹哉  
株式会社ぎょうせい北海道支社 細谷朋浩  
株式会社ぎょうせい 研究員 木戸隆

## 【5 副会長選出】

○事務局（池田課長）

それでは引き続き次第に沿って進めていきます。

まず昨年の津山副会長の後任の選出を会議でしていただきたいと存じますが、立候補はございますか。特にないようであれば事務局案をご提案させていただきたいのですがかまわないでしょうか。

－ 異議なし －

はい、ありがとうございます。

引き続き校長会から委員として選ばれております大久保校長先生に副会長をお願いしたいと存じますが、みなさまいかがでございましょうか。

－ 拍手 －

それでは大久保校長先生、副会長をよろしくお願いいたします。

それでは議事の進行を坪田会長、どうかよろしく願いいたします。

## 【6 議題（1）量の見込みについて（量の見込みの補正）】

○坪田会長

みなさんお忙しいところご苦労様です。

平成26年度第1回となります。

もう7月になりまして1年の半分が終わってしまいましたが、保育の方は新制度というのが平成27年にスタートするので色々と研修会があります。

私も先週、日本保育協会の研修会がありまして、山形に行って参りました。

ついに平成27年から財源を消費税の部分を充てながら、量と質の改善ということで新制度がスタートします。

消費税が10%に上がってもまだ量と質の改善には3千億、4千億円も足りないと言われていますが、そういうことを含めまして国の子ども・子育て会議でたくさんのことを練って今回の施行にあたってはいるわけですが、市にも子ども・子育て会議を設置して、市の計画をきちっとするよというこことでこの会議がありますので、みなさんよろしくお願いたします。  
それでは今日の議題になりますが、まず量の見込みについて事務局から説明をお願いします。

○説明員（木戸研究員）

それでは、「量の見込みの算出」について説明させていただきます。

昨年の2月から3月にかけて、国に石狩市ではどの事業をどのくらいのニーズが平成27年度から平成31年度の間発生するであろうという見込みを提出しました。

その後、いろいろ現実と乖離があるものについては補正をしたいと、そういった過程を今回この資料にまとめさせていただきました。

【資料1】「量の見込み」の算出について  
について説明

○坪田会長

はい、ありがとうございました。

それでは委員のみなさまの中から質問や意見などないでしょうか。

○木脇委員

家族社会学者として発言させていただきます。

推定子ども数と現在のニーズ調査とで、国の手引き的にはこれでいいのかも知れないのですが、これは今のニーズ調査で5年後10年後の計算をすると、見込みを見誤るのではないかと私は思います。なぜなら、ライフスタイルが全然変わるか、そうでなければ子どもがいなくなるかどっちかだと思っからです。

それは数字が証明しているのですが、いま収入が少ない若者世代がとても増えていて、生涯未婚率が2010年で男性20%、女性が10%、この30年間で4倍になっています。

今後はさらに未婚者が増えると思います。

子どものことを考えると女性の就労率を大幅にアップして共稼ぎになるか、あるいは未婚者がますます増えて子どもがいなくなるかしかないんですね。

そういうライフスタイルの問題が、この計算では今のライフスタイルがずっと続いていくと見込んだ数しか掬えないですよ。

このことは、国のやっている今までの少子化対策の大きなミスだと思うんですね。

まだこんなことやっているのとちょっと思いました。

日本の人口が、現在は約1億2千万、で、このままいくと2100年には4千8百万になるとも言われています。

そういう時代なんですけど、こうやって数字から行くとこれぐらい子どもが生まれるだろうとかっていう、のは平和だなっていう感じです。

○坪田会長

はい、いかがでしょうか。

○事務局（池田課長）

木脇委員のご意見は、まさに国の会議の中におきましても、現段階の推計が5年間有効かどうかについては議論がございます。

やはり石狩市における環境面等も加味していかなくはなりませんので、当然見込み量というところは、平成26年度の実績値や平成27、28年と推移していく中で、それぞれの年度の実績値という要素が加味されて、あるいはこの見込み量というのも当然都度都度変化する可能性もあるという認識がございます。

それに応じて5カ年の必要なタイミングで見直していくこと、これは子ども・子育て支援法の中でも明確にされておまして、会議のみなさま方とともに計画のブラッシュアップは当然必要であるという認識がございますので、この部分につきましては石狩市としましても今後のトレンドについてはしっかり見守っていき、必要に応じた修正をしたいと考えているところでございます。

○坪田会長

ありがとうございます。

○説明員（木戸研究員）

全国の情報としましても、ここまでの利用意向率がずっと続いていくという前提で進めていくことに関して懸念を覚える自治体が多くて、おっしゃったとおり計画の中間でこの数値は見直していくと、2,3年これでやってみて、就労形態の在り方等でどうしても変わってくると思います。

なので、計画の中間で見直すというのは全国的なものでして、現在の目安ということで今回は提出いたしました。

ただ継続するようなものではなく、必ず中間で見直しをすることによって石狩市にもっとも適切な方法を逐次検討していきますことを申し添えます。

○坪田会長

木脇委員がおっしゃったように、人口がどんどん減っていくわけですね。

少子化に歯止めをかけたいということで国が動いて、今回も少しではないのかもしれないけどお金をかける、新制度はいろいろと質の改善をしていくとは言いますが、保護者が払う保育料は今のところ変わらない感じでは出ていますよね。

少子化に歯止めをかけるのであれば、フランスだとか北欧諸国のように幼児教育が無料で、保育料もタダだによってやらなければいけませんよね。

だから、石狩市がこの量の見込みで、子どもが減っていくから施設的には足りてる、よかったよかったなのか。

石狩市の人口が減っていき老人人口は増えて行くということが歴然だって言っただけですよ。

この算出を見たときに、これが上がるということはまずありえない。

石狩市だけが保育料を無料にするって言ったら、札幌市から子育て世代がたくさん転入しますから、

人口も増えるんですけども、そうでなければ人口は減っていきます。

だから幼稚園も保育園も増やさなくても足りてます、ということが見えたということによしとしているということですね。

5年間の中で見直すというお話もありましたが、見込み量をもっと下がるかどうかを見直すような感覚だろうと思うんですね。

木脇委員のおっしゃるように、あがるってところには何の方策もないのだろうなというのが、私の感想ですね。

#### ○河岸委員

今の人口の問題もあるのですが、子育てなどでサポートを必要としている家庭は減少傾向にはなく、むしろ増えている中で、子育て短期支援事業や養育支援訪問事業がより必要になってくる可能性が高いと考えています。

そういうことからすると、養育支援訪問事業の平成25年度実績が18ですけど、今後、増えてくるのは予測として見えている部分ですが、見込み量が16、17推移していますので、それは厳しいなというふうに思います。

だから、人口は減少傾向かもしれませんが、量の見込みは倍増位していてもおかしくないくらいの状況にあるのではないかなと思います。

#### ○坪田会長

そういうものの変化を見たときということですね。

実際にこども相談センターで実感されているということですね。

#### ○河岸委員

そうですね。

単純に量だけじゃなくて、やはり現状と一致した形にしてみても行かないと少し見通しを立てたときに必ずしも数字だけではやっていけないところがあると感じます。

#### ○事務局（今田主査）

こども相談センター所管の養育訪問支援事業や、保健推進課所管の赤ちゃん訪問事業といった取り組みが進めば進むほどお互いの連携が密になるので、気になるお子さんは増えてくると思います。

#### ○坪田会長

たとえば養育支援訪問事業の見込み数というのは、今後変更すると捉えた方がいいでしょうか。

#### ○事務局（池田課長）

ただいまの河岸委員のご指摘ならびに現場の今田主査の状況等、今の段階ではこの見込み量をみなさま方にご提示させていただいております。

今後、意見や現場の数字に表れない部分の実態等をしっかりと把握させていただいて、見込み量については適宜補正し、スケジュール的にはみなさま方に次回の会議までにご提示させていただきます。

○坪田会長

いま説明がありましたけれども、子育て短期支援事業の部分で市内には児童養護施設というのはいないわけですが、どこの施設を利用しているのですか。

○事務局（今田主査）

この事業は札幌市内の施設 2 か所に委託しておりまして、利用希望がありましたら随時施設と調整をして、ご利用いただいております。

○坪田会長

虐待による親子分離の部分というのは、ここには含まれていませんね。

○事務局（今田主査）

はい。

含まれていません。

○坪田会長

他にご質問やご意見ないでしょうか。

量の見込みの部分ですが、5 ページの放課後児童クラブの高学年のニーズが高いという報告が載っていますが、この部分というのは次の計画に反映させるのでしょうか。

○事務局（池田課長）

まさに今回のポイントは、小学校 6 年生までに範囲を拡大する放課後児童クラブも確保方策が求められることと認識してございます。

しかしながら、現状の放課後児童クラブの状況を考慮しますと、すぐさま平成 27 年度から確保するという事は、なかなか困難であるという認識をもってございます。

ピーク時が何年度にやってくるのか、また、それまでの間にどうやってニーズをしっかりとカバーしていくのかということが課題であると認識しております。

この部分も計画にしっかりと具体的内容を記載することと考えておりますが、現状はまず既存の施設の範囲の中で、さらに遊休施設の活用、学校の余裕部分や公共施設の活用で確保していきたいと現実的には考えているところでございます。

これも事業計画の策定の中でみなさま方に改めてお示しさせていただき、5 年間の予定についてご意見を頂ければと存じます。

○三浦委員

量ではないのですが、放課後児童クラブの一ヶ月の利用料はいくらでしょうか。

○事務局（池田課長）

現在 3,500 円です。

○三浦委員  
ありがとうございます。

○坪田会長  
他にございませんか。  
それでは次に進んでいきたいと思います。

**【6 議題 (2) 教育・保育提供区域について】**

○坪田会長  
(2) 教育・保育提供区域について、事務局お願いいたします。

○事務局（大西主査）  
それでは、私からは教育・保育提供区域についてご説明いたします。  
教育・保育提供区域につきましては、前回の会議の事業計画骨子（案）の中で若干ふれておりました。  
石狩市では旧行政区域、石狩、厚田、浜益の3区域を設定したいと考えております。  
また、事業によっては市全域にするものもございます。

【資料 1-1】教育・保育提供区域の設定について  
について説明

○坪田会長  
事務局の説明に対しましてご意見ご質問何かありませんでしょうか。

○木脇委員  
年数回しか利用しないような事業や、必ずしも区域内に施設等を設置する必要性がない事業の量の見込みと確保方策は、市全域を提供区域に設定することとします。  
ということですが、つまり子どもが少ないところは事業等を行わなくてもよいという意味ですか。

○坪田会長  
事務局どうでしょうか。  
市全域でということ、浜益区から旧石狩市域に妊婦検診に来たり、一時預かりや病後児保育、地域子育て支援事業等を利用するということになりますね。  
人数が少ないからということなのかというご質問ですけどもいかがでしょうか。

○事務局（池田課長）  
ただいまのご指摘でございますが、確かに捉え方によりましては、少数のニーズを切り捨てる恐れがあるのではないかとということがおありかというふうに思います。  
計画を策定するにあたりニーズの確保という部分については、石狩市として大切なことだと考えておりますので、しっかりと現実的な部分を見据えた中での計画にしていく必要があると認識しており、

表現的にはこうした形で表現をしておりますが、決して少数の部分を切り捨てるということを前提に考えていることではないことはご理解いただきたいと存じます。

○坪田会長

厚田区、浜益区には産婦人科はありますか。

○事務局（沢田部長）

ないですね。

○坪田会長

人口の少ない地域の切り捨てにならないような教育・保育提供区域の部分についてのご意見が出ましたのでよろしくお願ひいたします。

他にないでしょうか。

なければ進みたいと思います。

**【6 議題（3） 子ども・子育て支援新制度に向けて石狩市が定める基準について】**

○坪田会長

（3） 子ども・子育て支援新制度に向けて石狩市が定める基準について、事務局お願いします。

○事務局（剣持主査）

私の方から議題の（3） 子ども・子育て支援新制度に向けて石狩市が定める基準についてご説明させていただきます。

子ども・子育て関連 3 法に基づいた施設や事業の設備及び運営の基準につきまして、国が定める基準を踏まえまして、市町村が条例で定めるということになっておりますことから、このたび平成 26 年 6 月 5 日から 18 日までの間で、広くパブリックコメントを行いましたことについてご説明させていただきます。

今回意見を募集した項目についてですが、大きく 4 項目ありまして、1 点目については家庭的保育事業等の設備及び運営の基準、2 点目については特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準、3 点目については教育・保育給付の認定及び支給の手続きの基準、4 点目については放課後児童クラブの設置及び実施の基準となっております。

**【資料 2】 子ども・子育て支援新制度に向けて石狩市が定める基準について**

**【資料 2-1】 「子ども・子育て支援新制度の基準について」 に対する意見の検討結果**  
について説明

○坪田会長

はい、子ども・子育て支援新制度に向けての基準についてでしたが、質問等ございませんか。ないようなので、それでは次へ進みたいと思います。

【6 議題 (4) 次世代育成支援行動計画後期計画「こども・あいプラン」の進行管理について】

○坪田会長

(4) 次世代育成支援行動計画後期計画「こども・あいプラン」の進行管理について、事務局お願いいたします。

○事務局 (山本主任)

私からは次世代育成支援行動計画後期計画の「こども・あいプラン」の進行管理についてご説明させていただきます。

まず始めに、こども・あいプランの進行管理業務につきまして、昨年度は石狩市長から石狩市子ども・子育て会議へ諮問を行い答申をいただいたところでございますが、これは、石狩市子ども・子育て会議条例第 2 条第 2 項の「子どもに関する施策について、市長の諮問に応じて調査審議すること。」の規定により行ったものであります。

今年度は石狩市子ども・子育て会議条例第 2 条第 1 項の「子ども・子育て支援法第 77 条第 1 項各号に掲げる事務を処理すること。」の規定により行うため、諮問は行わないことといたします。

根拠条例の違いにつきまして、昨年度のこども・あいプランの進行管理業務は、次世代育成支援対策推進法第 8 条第 7 項の規定により行ったため、子ども・子育て会議の範疇外と判断し諮問が必要となりました。

今年度のこども・あいプランの進行管理業務は、子ども・子育て支援法第 77 条第 1 項 3 号に該当する新計画の策定に必要な業務であると判断し諮問は必要ないということになります。

【資料 3】 こども・あいプラン進行管理シート

【資料 3-1】 こども・あいプラン成果指標事業および目標事業量事業総括シート

について説明

○坪田会長

はい、進行管理シートについての説明がありましたが、質問ご意見ございませんか。ないようですので、次に進みます。

【7 その他 (1) 事務局より事務連絡】

○坪田会長

事務局の方から何かあればお願いいたします。

○事務局 (大西主査)

私の方からご説明いたします。

こちらの資料につきましては、国が作成し子ども・子育て支援新制度の説明会などで配布した資料でございます。

内容といたしましては、国、地方自治体がどのようなスケジュールで作業を進めているのかというのが分かるような内容になっています。

【資料 4 平成 27 年度本格施行までの作業・スケジュールについて】

について説明

○事務局（山本主任）

私からその他として3点ご報告いたします。

まず1点目ですけれども、庁内連絡会議についてご報告致します。

石狩市子ども・子育て支援事業計画の骨子（案）でご説明いたしましたとおり、新計画はこども・あいプランを継承した石狩市の子どもの総合計画として位置付けています。

このことから、去る6月4日に庁内連絡会議と称し市役所内の関係分野の担当者と情報交換を行ったところであります。

今後は、新計画と各関連計画との整合性を図っていくこととしております。

つづきまして2点目は、子ども参加プロジェクト事業についてご報告致します。

こども・あいプラン進行管理シートにも記載していますが、この事業は子どもの権利条約の子どもの参加する権利を保障することを目的に、市内の中学校、高校の生徒会代表者で組織したプロジェクトチームが市の施策への提言やまちづくりの企画運営を検討する事業です。

今年度は、石狩市の地産地消について、年5回のワークショップで施設見学や調理実習など行い検討していく予定となっておりますが、このワークショップ1回を利用して、新計画について中高生に意見をいただこうと考えております。

中高生は新計画の対象者であるとともに、やはり、石狩市の次代を担う存在ですので、中高生の視点を反映させていくことが必要であると考えたためです。

委員のみなさまのご審議とは別に、このような機会を設けることをご了承いただければと思います。

最後に3点目といたしまして、次回の会議の日程調整をさせていただきたいと思っております。

現在、事務局では9月の第1週を予定してございます。

お配りしました書類に、ご都合のよい日時を記載していただきご回答いただければと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

その他は以上になります。

○坪田会長

はい、まず【資料4 平成27年度本格施行までの作業・スケジュールについて】についての説明がありました。こちらに関して質問などありますか。

それでは、全体を通しての質問などないでしょうか。

○河岸委員

ひとつだけよろしいでしょうか。

これは意見といいますか、こういう事例があったということでお伝えしますけれども、介護保険は40歳以上の方が対象になりますが、40歳未満の若いお母さんがガンで倒れてしまったときに、お子さんがまだ小さかったりするわけですね。

そのお子さんに対する支援が意外とないというところで、お父さんは働いているし、それであればおじいちゃんやおばあちゃんに頼ることになるのでしょうか。もし、そういう状況ではない場合で、なおかつ、お母さんが保険に入れなかったりすると、金銭的にきついです。

そういう状況では子育て支援というものが使えないですね。

お願いしたくてもできない、いろんなボランティアさんを頼むとか方法はあるのですが、こういうケースがあった時に支援が十分じゃなかったなという話がありました。

そういう場合にどんな支援ができるのかというのも、これから検討していかなくてはならないということでした。

○坪田会長

そういう場合の支援はないのですね。

○河岸委員

そうなんです。

介護保険も使えませんし身体障害者手帳の申請も行えません。

身体障害者手帳がないと支援が受けられませんので、あとはファミリー・サポート・センターを利用するしかないんです。

○三浦委員

同じような状況にあるご家庭で、子育てボランティア訪問の利用が初めてあって、合計で4回無料で行かせていただきました。

金銭面で困っているようで、ファミリー・サポート・センターを使うに前に、無料の訪問ボランティアを利用したようです。

○坪田会長

保育園は親の病気でも入れますので、きっと緊急的には保育園に入ることはできると思います。

昼間は幼稚園や保育園を利用しているとしても、たとえば送り迎えをファミリー・サポート・センター等をお願いすることがあると思います。

結局治療にすごくお金がかかるので、ボランティアさんへ支払う600円、700円というのも負担になりますよね。

○河岸委員

制度ってどうしても隙間ができますので、その隙間を埋める柔軟な何かがあるといいなっていうのがその時の話でした。

○坪田会長

こども相談センターに相談に見えたのでしょうか。

○河岸委員

いえ、これはこども相談センターの話ではないです。

別のところで出た話で、こども相談センターで何かできればという話をしていました。

このケースは、結局おじいちゃんやおばあちゃんが、がんばってくれたのでなんとかなりましたが、

もしこのようなケースでおじいちゃんやおばあちゃんがいなかったらどうするかというところも考えて行かなくてはならないというところです。

○事務局（沢田部長）

介護保険で40歳以上の方で対象となる特定疾患と認められるのは、末期ガンです。

手術を行うことのできる段階では介護保険も使えません。

40歳というひとつの根拠は、生活習慣病の境目の歳が40歳ということです。

これをベースに40歳以上で15項目ある特定疾患に、さらに末期ガンを加えたというのが実態のところでは。

では、20代30代のお父さんが末期がんになっても大丈夫かといわれると、これもどこかに隙間ができてしまいます。

一定程度の所得が落ちると、市の減免制度が適用されます。

ですから、一定の負担軽減にはなりますが、長期化するとそれもできなくなるという現実もあります。

そういう面で市はいろんな相談窓口持ってますので、最終的にはどういう支援になるのかという社会保障の部分ではあるんですけど、やはり各所管でネットワークを組んでいろんな支援のアドバイスをしていくということが大切なのではないでしょうか。

○坪田会長

はい、分かりました。

ありがとうございます。

他に質問意見などないでしょうか。

○青木委員

私、保育園を代表して参加しているので聞きたいのですが、こども・あいプラン成果指標事業および目標事業量事業総括シートで、平成25年度の定員目標が770人で平成26年度が860人となっていますが、これは保育園を1園増やすというようなことでしょうか。

○坪田会長

はい、事務局お願いいたします。

○事務局（沢田部長）

この数値に関しまして、平成24年度が770に対しまして入所円滑化を活用して900人強の需要が、割合として110%ほどありました。

計画当初の想定では、順調に微増するだろうということで考えていましたので、平成26年度の目標値が860となっているところです。

○坪田会長

子ども・子育て支援新制度になった時の入所円滑化というのは、石狩市としてはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

○事務局（沢田部長）

入所円滑化は残ると思いますし、地域によっては採用しようと思っています。

今も7月1日現在の保育状況というのは、770に対しまして、110%になっています。

昨年の同時期と比べたら何十人か減っており、平成24年度がピークで推移しています。

保育園のピークがスライドしたのが放課後児童クラブになりますので、時期を少しずらしていくとピークは見えてくるというのが、われわれ現場サイドのイメージです。

○坪田会長

保育園のピークは過ぎたという判断ですか。

○事務局（沢田部長）

就学前は過ぎたと判断してもいいかなと思っています。

○坪田会長

入所円滑化なのですが、国の資料では当面の間となっていました、具体的なことはわかりますか。

○事務局（剣持主査）

当面の間については、まだ国から具体的には示されておられません。

○坪田会長

他に何か全体を通してないでしょうか。

9月開催の次回の会議では、保育園や幼稚園の意向調査も終わっていますね。

どのような会議を想定なさっていますか。

○事務局（池田課長）

平成25年度の時にみなさま方に、事業計画骨子案ということで提出させていただきましたが、基本的にその骨子案をもとに、より具体的に、特にポイントになるのは確保の方策、足りないところはどうかやって確保していくのかという表現の部分をみなさま方にご提示してご意見を頂ければと思っています。

その中では、保育園における確保の方策として、入所円滑化の部分をどの時点まで行うだとか、そういったところもご提示できるのかなと考えております。

その中で、具体的な確保の方策が果たして理にかなっているのかということで、ご意見をいただいたものを再度計画の中に反映するものは反映して、そして次のステップに進みたいと考えております。

## 【8 閉会】

○坪田会長

はい、他になにかありませんでしょうか。

ないようであれば第1回石狩市子ども・子育て会議を閉会いたします。

みなさん、どうもご苦労さまでした。

平成26年7月29日議事録確定

石狩市子ども・子育て会議

会長 坪田 清美